

ぶちぎれ

田富中第2学年 学年通信

～青学年全員の挑戦譚～

22.9.20 (Tue)

未来は自分で拓くもの

文責：佐野 亮祐 (2)

単語テストに見る厳しい現実

夏休み明けテストの結果も返ってきました！

夏休みの課題として英語科から出された宿題。内容は中学1年生で学習した英文を覚えるまでひたすら書いてくること。来年の受験を見据え、この時期に中学1年次の力をつけておくことは重要です。過日、夏休み中にどれだけの力がついたのかを確認するために50問テスト(42点以上が合格)を行いました。結果は…とても数字には表せない合格率でした。このままじゃダメだ！と先日再テストを行いました。結果は…43%の合格率…(この数字から1回目のテストの合格率は想像できるのではないのでしょうか…)。理解するまで、できるようになるまで、書けるようになるまで、繰り返し書けば合格できるテストです。でもそれを多くの人ができなかった。もちろん、得手不得手はあるでしょう。でもね、ここで私がみんなに言いたいことは「本当に、真剣に、このテストに合格するために、必死で何度も何度も英文を書いたのか!？」ということだ。夏休み、みんなには同じだけの時間が流れたはずだ。テスト前にも十分それに取り組むだけの時間はあったはずだ。でもやれなかった。やらなかった。これが現実。こんなテストどうでもいいってことか?じゃあ来年の進路決定を前に「あの時もっとやっておけばよかった」と誰一人弱音を吐くんじゃないぞ!コソコソ勉強ができない人、やらない人に明るい未来はやってはこないよ。この程度のことから簡単に逃げるなよ。進路って甘くないんだよ。

努力すれば報われる? そうじゃないだろ。報われるまで努力するんだ。リオネル・メッシ

大切なのは過程です。結果だけなら、全部ジャンケンでいい。羽生善治

世の中の大事なこことってたいてい面倒くさいんだ。宮崎駿

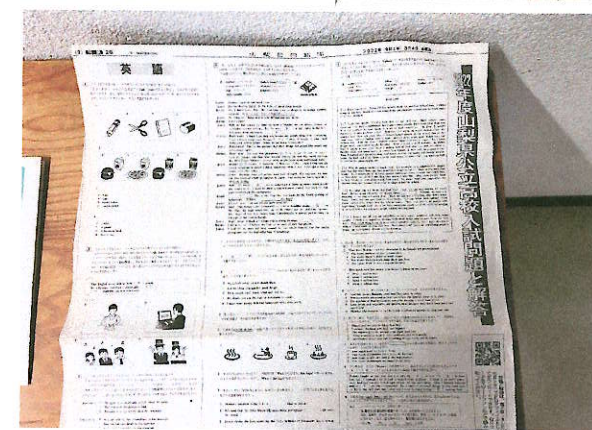
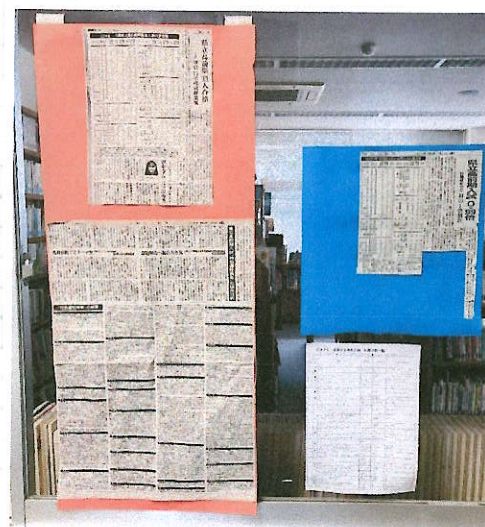
先の単語テストの話に戻る。再テスト前の昼休み、3人の女子生徒がTT教室にやってきた。「ぶるちゃれノート未提出じゃないんですけど、TT教室を使って単語練習していいですか?」と。こういうことでしょ!ととても嬉しい気持ちになった。聞けば3人とも1回目は不合格だった、と。でも受かりたいから昼休みに勉強するんだ、と。3人とも合格したかはわからない。でもそれに向けて努力している姿は紛れもなく正しかったし、こういう習慣をつけていかなければ明るい未来は拓かれないと思っている。今後も3人には是非ともそういった姿を魅せ続けてもらいたい。

9月の目標は「自分の殻を破る」と。学園祭に向けてだけじゃない。日常もだ。

あすがある、あさってがあると考えている間は
なんにもありはしない。

かんじんの「今」さえないんだから。

甘くないからこそ…“先を見て、今を生きる”



図書室前にも掲示されています。

中澤先生ありがとうございます。

学園祭は終わりました。その中で経験したことも日常に生かすつもり。今も大事に。